

健康・医療・福祉部会（第 2・3・4 回）審議状況

重点テーマ：「多様な生き方が受け入れられる社会」、「支援が必要な人を支える地域のネットワーク」

		学齢期前（就学前）	学齢期（就学）	成人期（就労）	高齢期	全般にかかる意見
障害児 障害者	発言内容	①障害児の保護者が相談できる環境整備やレスパイトのための環境整備が必要だと思う。	①小学校等で障害者等と接する機会をより充実させてはどうか。障害のある子とない子が、日常的に接することでお互いのことを理解できる。 ①障害者等に年に何回か接するだけだと「特別」な体験に感じる。「多様」という言葉はまだ差を感じているから出てくる言葉。日常的に接する環境を「ふつう」と感じるようになるとう良い。 ①障害のある人となない人が自然に交流できる場があると良い。	①障害者の就労について、障害の程度が軽度か重度かの別まで踏み込んで考える必要がある。重度の障害者は、事業者に重度の障害者の雇用枠がないと雇用されない。多様な就労形態が必要である。 ②“見守り”という考え方は、外から見て「元気かどうか」という視点に立つものだが、「元気かどうか」を、暮らしている“本人が発信”して、周りがそれを受け取るという考え方も必要だと思う。	①医療機関や研究機関等の協力も得ながら、障害のある方が認知症になったあとも幸せに暮らしていけるような社会になっていると思う。 ②高齢になっても地域での生活を続けるためには、介護サービスと障害福祉サービスを適切に組み合わせられるように改善が必要だと思う。 ②介護保険法の適用が始まると費用負担が変わることについて周知が必要である。	①障害福祉サービスは、障害者手帳がなくても使えるものもあるので、障害者手帳の所持の有無にかかわらず、障害福祉の対象者を考えていく必要がある。 ②ふれあい運動会を、継続的に実施して根付かせていくとともに、様々な地域で実施していくのが良いと思う。 ③ICTの活用により、音声や動画の共有や提供、情報の多言語化が可能になり、障害者や外国人の情報共有に役立つと思う。 ③10年後 ICTの発展によるメリットを享受する人もいる一方で、高齢者や知的障害者など、同様には情報を受け取れない人への配慮が必要である。 ④第 5 世代移动通信システムにより、ネットワークや動画サービスの発展が想定される。これを活かして、区民が障害者等と接する機会を増やすと良い。 ⑤新しいまちづくりや学校統合などのインフラ整備にあたり、福祉のことも踏まえて検討を進めていくと良い。
	答申 イメージ	①介護者は、身近な場所で気軽に相談でき、適切に十分な休息（レスパイト）を得て、安心して自分らしい暮らしを続けている。	①区民は、子どもの頃からさまざまな機会を通じて、障害者等に接し、相互理解が深まっている。	①障害者等は、障害の種別や重さなど、個々の特性に合ったかたちで就労し、自分の能力を発揮している。 ②身近な地域の中での見守り・支えあい活動によって、支援が必要な人は、適切な相談・支援を受けている。また、見守られる側も、自らの状況について発信し、地域の中で受けとめられている。	①区民は、認知症に対する適切な医療・支援を受けて、穏やかに暮らし続けている。 ②障害者等は、高齢になっても、必要なサービスや支援を受けて、地域の中で暮らし続けている。	①障害者等は、手帳の有無にかかわらず、多様なサービスの中から自分に合ったものを選択して利用している。 ②区民が、障害者等と交流する機会が区内全域で根付いている。 ③区民は、言語や障害による壁がなく、ICT を活用して情報を入手している。また、多様な媒体により必要な情報を入手することも保障されている。 ④ICT を活用して、障害の有無にかかわらず、区民が相互に交流する機会が増えている。 ⑤すべての区民が利用しやすいまちづくりが行われている。

高齢者	発言内容			<p>①「地域のネットワーク」の成功事例の特長とうまくいった要因を分析し、それを永続的にするための方策を、システム論的に考える必要があると思う。</p> <p>②民生児童委員として、誰でも来てもいいサロンを増やす等、高齢者と子どもの居場所づくりを地道にやっている。</p> <p>③認知症の方は、自分が認知症だと思っていない方が多い。その家族は事実を周囲に話したくないという場合が多い。認知症をオープンに気軽に話せる中野区になると良い。</p> <p>④働くことは社会貢献や健康につながるので高齢者の就労が進むと良い。また、地域活動に参加しやすい環境づくりが必要だと思う。</p>	<p>①地域包括ケアシステムの考え方は、高齢者介護だけではなく、子どもや障害者等、すべての人を対象としている。すべての人を対象としたうえでどう稼働するのか。区のオリジナリティを出す必要がある。</p> <p>②高齢者と子どもを一緒にすると、高齢者から「子どもがうるさい」と苦情が出ることもある。異なる性質を持つものを一緒にするときは慎重に進める必要がある。</p> <p>③要支援の人が増えている一方で、介護人材が不足しており、介護事業所への支援が必要と思う。</p> <p>④家族のケアに頼るといような実情ではもはやないのだという前提でいうと、社会的なネットワークや支援の必要性はどうしても避けられないと思う。</p> <p>⑤地域包括ケアシステムに必要な包括的な支援やサービスの提供のためには、医療機関や介護事業者等の関係機関の連携が必要である。</p>
	答申イメージ			<p>①地域ネットワークの成功事例が他の地域に共有され、区全体としてネットワークの質が高まっている。</p> <p>②地域には、誰でも気軽に集まることができる場所があり、地域住民により運営されている。</p> <p>③区民が、認知症について深い理解を持っていて、自分や家族の認知症について、周囲に気軽に話しやすくなっている。</p> <p>④高齢者が、仕事や地域活動を通して社会に貢献し、生きがいをもって暮らしている。</p>	<p>①すべての区民は、地域の中で、あるときは支える側、あるときは支えられる側として暮らせるような、垣根のない地域社会が築かれている。</p> <p>②区民は、子どもの頃からさまざまな機会を通じて、障害者等に接し、相互理解が深まっている。</p> <p>③区に拠点を置く事業者は、適切な人材が確保できており、質の高いサービスを提供し、地域住民の暮らしを支えている。</p> <p>④身近な地域の中で見守り・支えあい活動により、適切な相談・支援を受けられている。</p> <p>⑤医療機関や介護事業者等の関係機関の連携により、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される包括的な支援・サービスの提供体制が構築されている。</p>
その他 (生活困窮者・ 疾病療養者等)	発言内容		<p>①複合的な問題を抱えて困窮している区民に対し、自立に向けた総合的な支援ができると良い。</p>		<p>①今の時代はリスク管理が念頭におかれることが多いので、ご近所同士でも声をかけ合えないことがあるが、少々のことはお互いさまと言い合える、寛容な雰囲気のある中野区になっていくと多様な生き方が受け入れられると思う。</p> <p>②区の職員が地域団体と連携して要支援者を発見するなどのアウトリーチ活動では、地域とつながりがなくて把握されにくい要支援者もいる。そういった方を、福祉サービスや専門機関とどう結び付けるかが課題だと思う。</p> <p>③老々介護、障害者の介護、貧困の発生、病気と就労等、複合的な問題も発生し複雑化する福祉行政をワンストップ化するとともに、ひとつひとつの案件に複数の職員で対応する体制を作ると良い。</p> <p>③来庁者は座ったまま動かず、職員が動くようなワンストップ窓口を作ってはどうか。誰もがアクセスしやすい庁舎で、ある程度の知識を持った職員が総合相談として最初に対応し、具体的な支援は制度横断的ケアマネジャーが対応する等、物理的な配置と人材を用意する必要があるが、利用者の利便性は高いと思う。</p> <p>④ファミリー・サポート事業のような有用な仕組みを、区からもっと広報すると良い。</p> <p>⑤本人たちが単身でいても楽しく元気に安全に暮らしているかというところが重要だと思う。</p>
	答申イメージ		<p>①誰もが必要に応じて、自立に向けた適切な支援が受けられ、自立して安心した生活を営むことができる。</p>		<p>①地域の中で、区民同士が互いに理解し、受け入れあい、困ったときに支えあえる良好な関係を築いている。</p> <p>②区の職員が自ら地域に出て把握した、支援を必要としている人が、地域のネットワークの中で、適切な相談・支援を受けている。</p> <p>③区は、総合窓口において、ワンストップで区民の複合的な課題に対する説明、情報提供及び手続きなどのサービスを提供している。</p> <p>④区は、区民の特性やニーズに応じて、多様な媒体により情報を発信している。</p> <p>⑤世帯の状況によらず、誰もが毎日の暮らしを元気に安全に楽しんでいる。</p>

重点テーマ：「生涯を通じて健康に過ごせる環境」

		学齢期前（就学前）	学齢期（就学）	成人期（就労）	高齢期	全般にかかる意見
健康づくり	発言内容		<ul style="list-style-type: none"> ①学校の体育だけが身体を動かす機会という子どももいるので、運動の重要性を子どもに理解してもらい、運動習慣を身につけてもらう取り組みが必要だと思う。 ②子どもが楽しく遊べる場所を整備し、体育館の運動プログラムの定員を増やしてほしい。 ③学校部活動が教職員の過剰な負担となっているところもあるので、教職員とは別の次元で考え、負担を減らす必要があると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①一般的なウオーキングイベントは高齢者の参加者が多いが、オシャレな感じにすると若い人が来るようだ。30分以上、歩いたり走れたりする場所やコースを中野区が作ると良い。コースに初級・中級・上級の設定や距離やカロリーの表示があると良い。 ①運動習慣を若い人たちや子どもに根付かせるためのイベントがあると良い。 ②心の病になったあとの支援も必要だが、事前に心の病の原因となるストレス等への対処の仕方を知っておくことで、心の健康を維持することができると思う。 		<ul style="list-style-type: none"> ①中野区の企業や大学、区民が一体となってイベントを実施すると盛り上がると思う。 ②区民がウオーキングイベントに参加したくなるように、歩数に応じた景品を用意すると良い。 ②運動が特別なものではなくて生活に近いものになっていくことが必要だと思う。 ②区が転倒予防や糖尿病対策の運動を紹介するアプリや動画サイトを作って運動を促すと良い。 ②健康でいることにインセンティブを与えることで、健康意識が向上すると思う。 ③昼間、地域の人にウオーキングコースの案内役を有償で担ってもらうことで安全性が高まると思う。 ④ウオーキングコースの路面整備や街灯、点字ブロック、防犯カメラ、ベンチの設置、日陰の用意、コースの英語表記など安全性を高めることが必要だと思う。 ④AEDが街中のどこにあるか周知し、学校や役所の建物内のAEDを外に出して区民が使えるようにすると運動の安全性が向上すると思う。 ⑤ヘルシーランチの店を増やす取り組みをしてほしい。いつまでも楽しくおいしく食事ができることが健康につながると思う。 ⑤足立区のように区民の野菜の摂取量を増やすために、区内の飲食店と協力する取り組みをすると良いと思う。 ⑥地域スポーツクラブが健康づくりや地域の交流の中心となり、相互理解の基盤としての役割を果たしている。
	答申イメージ		<ul style="list-style-type: none"> ①子どもたちが、運動の大切さを理解し、日常的に身体を動かす習慣が身についている。 ②子どもが楽しく遊べる環境や機会が充実している。 ③学校部活動は、外部からの活動支援等によって、活性化している。 	<ul style="list-style-type: none"> ①区民が日常的に運動したくなる環境が、様々な主体により提供されている。 ②区民は、心の健康づくりに取り組むとともに、心の病に対する理解を深め、適切な治療や支援をすみやかに受けている。 		<ul style="list-style-type: none"> ①企業や大学、区民が一体となって、まちに活気を与えている。 ②区民が日常的に運動したくなる環境が、様々な主体により提供されている。 ③様々な形態のボランティア活動により、区民の運動習慣が支えられている。 ④すべての区民が日常生活の中で安全に運動できるような環境が整備されている。 ⑤区民は、健全な食生活を通して健康を維持・増進させている。 ⑥地域スポーツクラブが中心となり、区民やそれを支える関係機関・団体、事業者等がスポーツによる健康づくり活動を通じて地域の中で交流することで、相互理解を深め合っている。

医療	発言内容	<p>①就学前の健康や障害について、正しい知識を早く親に伝えた方がよい。子どもにとってより良い選択をできるような支援が必要だと思う。</p> <p>①発達障害は早期発見と家族の理解が重要である。</p> <p>②先進的な機器を導入するなど、乳幼児健診により、早期に乳幼児の異常に気付けるようにしてほしい。</p> <p>③乳幼児健診の時に保護者の異変や乳幼児の障害の有無に気付けるようになることが良いし、かかりつけ医もその役割を担っていけると良い。</p>	<p>①心の病によって働きたくても働けない区民がいると思う。休んだり、働いたりを認めてくれる場所があれば良い。働きづらさを抱えた人を受け入れる場が必要である。</p> <p>②健康診断の受診率を向上させて、病気の早期発見、早期治療につなげる必要がある。</p>	<p>①在宅医療の需要が高まるはずで、10年後に医師が足りなくなっていく流れがある。中野に医師が集まるような魅力を作る必要がある。</p> <p>②生活習慣病由来で要介護の状態になっていると考えられる人がいる。生活習慣病と高齢介護の施策が分断しないようにしていく必要がある。</p>	<p>①区民がスマホで健診データや歩数や血圧、食生活や運動習慣を登録すると、区がシステムで健康状態を予測し、不調を予防するための案内を行うと良い。この取り組みによって中野区にいただけで健康になる環境づくりができると思う。</p> <p>②医療や障害福祉の情報とマイナンバーが結びつく流れだが、マイナンバーを利用することでみんなが幸せになるシステムづくりが進むと良い。</p> <p>③健康づくりや疾病予防の観点からも、かかりつけ医とかかりつけ薬局を持つことが大切であるため、区民に意識啓発する必要がある。</p> <p>④診療所は、介護サービスが必要な人は地域包括支援センターに連絡して介護サービスにつなぎ、病院での診察が必要な場合は専門の医療機関につなぐ役割を担っている。</p>
	答申イメージ	<p>①区民は、子どもの健康や障害についての正しい知識をもっている。子どもはそれぞれの特性に合った支援を受けている。</p> <p>②乳幼児健康診査で、多職種が関わり、子どもの発育や発達、生活習慣の確立や社会面も考慮した健康状況の把握が行われ、継続的な子育て支援が行われている。</p> <p>③乳幼児健康診査等で保護者の状況等の社会面も考慮した状況が把握され、必要な支援が継続的に行われている。</p>	<p>①働きづらさを感じている区民が、その人らしい形で就労できている。</p> <p>②区民は、病気を早期に発見し、治療しており、健康に生活している。</p>	<p>①区民は、医師や医療機関が充足した環境で、希望する医療サービスを受けられている。</p> <p>②区民は、ライフステージに応じて、区の支援を受けながら、生活習慣病の予防や重症化の予防に取り組んでいる。</p>	<p>①区民がICTを利用して、自らの健康のリスクを知ることができ、生活習慣病等の予防に取り組むことができている。</p> <p>②マイナンバー制度に対応した利活用が進み、区民の利便性が高まっている。</p> <p>③区民は、かかりつけ医・かかりつけ薬局を持ち、身近な地域で気軽に受診相談ができており、個々に適した健康づくりや疾病予防に取り組んでいる。</p> <p>④医療機関相互の連携が強化され、適時適切な医療が受けられる体制が整っている。</p>

重点テーマ：「支援を必要な人を支える社会参画」

		学齢期前(就学前)	学齢期(就学)	成人期(就労)	高齢期	全般にかかる意見
社会参画	発言内容		<p>①ボランティアに意欲的でも、中野区からの情報を受け取れていない若年世代や外国人などがいるようだ。発信する側も多様な受け手に対して情報を届ける工夫が必要だと思う。例えば、フェイスブックやツイッター等、SNSの積極的な活用も考えられる。</p> <p>①学生たちが区役所からの情報を受け取れていない。駅前や区役所待合スペースなど、人が滞留する場所に大きいテレビを置いて、情報を流し続けることで不特定多数の人に情報を発信すると良い。</p> <p>②中野の芸能人を「福祉大使」などに任命して定期的にイベントを企画することによって、若者のボランティアへの興味を刺激して行動につなげてもらう方法を工夫すると良い。</p>	<p>①20～30代の区民は、地域に貢献できるような活動をしたいたいと思っても、町会・自治会に入りづらい雰囲気を感じているようだ。例えば、民生児童委員のなり手として声をかけてみると良い。</p> <p>①高齢者だけではなく、若い世代が働きながらも民生児童委員などの地域活動に気軽に参加でき、一緒に地域を支えられるようになると良い。</p>	<p>①有償ボランティアを推奨すると良い。サービスを広く薄く担う点、誰でもできる気軽さ、社会に役立つ場を作り出す等、社会に有効なツール、高齢者などの生き甲斐作りや仲間作りの場にもなっていくと思う。</p> <p>②区民のニーズに合わせて、高齢者会館等を土日も利用しやすく運営し、自主的なサークル活動を促進すると良い。</p> <p>③区報は、高齢者を中心に読んでいる人が多いので、もっと活用できると思う。また、民生児童委員やシルバー人材センターの会員等、地域で活動している人に、口コミで情報を広めてもらう等、情報発信の手法を工夫すると良い。</p> <p>④介護事業所の高齢者を有償ボランティアとして活用することを検討すると良いと思う。</p>	<p>①ボランティアは、その人が貢献できる、自分が興味あるところで活動してもらうのが良く、そのための場所や機会というものを自治体が主導してマッチングするのが良いと思う。</p>
	答申イメージ		<p>①区は、区民の特性やニーズに応じて、多様な媒体により情報を発信している。</p> <p>②地域の多様な人材の活動をきっかけに、社会貢献活動に参加する人の裾野が広がっている。</p>	<p>①幅広い年代の区民が、それぞれの関心に応じて、積極的に地域活動を行っている。</p>	<p>①区民は、様々な形態のボランティア活動によって地域に貢献している。</p> <p>②高齢者は、身近な場所で気軽に地域の様々な活動に参加している。</p> <p>③区は、区民の特性やニーズに応じて、多様な媒体により情報を発信している。</p> <p>④高齢者は、自らの能力に応じた活動により、社会に貢献している。</p>	<p>①区民は、それぞれのライフスタイルに応じた多様な形で、地域に参加している。</p>

その他のテーマ

		学齢期前(就学前)	学齢期(就学)	成人期(就労)	高齢期	全般にかかる意見
	発言内容					<p>①害獣駆除は現在も適切に行われていて大変ありがたい。現状の維持が望ましいと思う。</p> <p>②食の安全や薬物乱用への対応は非常に重要である。</p> <p>③新型インフルエンザ等の危機も過去にあった中で、適切な対応が必要である。</p> <p>④高齢者の一人暮らしが増えている中で、1人でも安心して、高齢になっても障害があっても、病気になっても認知症になっても暮らせる住まいが必要で、多様な住まい方から本人が望む住まい方を選択できると良いと思う。</p> <p>④社会でその地域で暮らすような住宅、シェアハウスなど、自分の意思で入れるような、住めるような場所があって、その中から選択できると良い。</p>
	答申イメージ					<p>①害虫・害獣等生活環境を阻害する要因が排除され、区民が良好な生活環境の中で暮らしている。</p> <p>②健康リスクに関する正確な情報を行政・関係機関・区民などの関係主体間で共有し相互に意思疎通を図ることで健康危機に対応している。</p> <p>③輸入感染症等の国際化に伴う健康危機に対応している。</p> <p>④区民は、多様な住まい方の中から自分にあった住まい方を選ぶことができている。</p>